

【再生医療の未来を自動化で切り拓く】

RMDC、自社 CPF 内の「幹細胞自動培養装置」紹介動画を公開

パス株式会社（東京都渋谷区：東証スタンダード コード番号 3840）の連結子会社で、再生医療支援および細胞培養の専門企業である株式会社RMDC（東京都渋谷区神宮前 6-17-11、代表取締役：川端 暢宏。以下、「RMDC」という。）は、兵庫県尼崎市内の自社細胞培養加工施設（CPF）内に設置、試験運用中の『幹細胞自動培養装置（自動培養ロボット）』の紹介動画を YouTube 上のパスグループ・IR/PR チャンネルにおいて公開いたしましたのでお知らせいたします。

■ 動画公開の背景と目的

再生医療の普及において最大の課題の一つは、熟練の培養士による手作業に依存した「細胞製造のコスト」と「品質のバラツキ」です。RMDCはこの課題を解決すべく、兵庫県尼崎市の自社 CPF 内に、細胞播種から回収までを全自動で行う「幹細胞自動培養装置」を設置し、運用の最適化を進めてまいりました。

この度、本装置の精密な動作やクリーンな培養環境を広く知っていただくため、実際の稼働シーンを収めた短編動画を公開いたしました。

(YouTube チャンネル) @Path-group_IR-PR

(動画視聴 URL)

<https://youtu.be/7LIif-CTdvis?si=sdDDjm00bjrewEvz>

■ 本装置の主な特徴

- ① コンタミネーション（異物混入・汚染）リスクの極小化：
閉鎖系システム（シングルユース仕様）の採用により、外部環境からの汚染リスクを徹底排除。
- ② 品質の安定化：
一定のアルゴリズムに基づいた培養管理により、ヒューマンエラーを防ぎ、均質な細胞製造を実現。
- ③ 高い生産性：
自動化による省人化を実現し、将来的な細胞製剤の量産化・低コスト化に寄与。

■ 韓国 MEDIPOST 社との提携による「フィジカル AI」の実装へ

RMDC は、2026 年 3 月、韓国のバイオテクノロジー大手である MEDIPOST 社（メディポスト）と、次世代自動培養ロボットを活用した細胞製造の自動化（FA）および「フィジカル AI」実装に向けた業務提携を締結いたしました。

本提携により、世界初となる他家由来幹細胞治療薬の実用化実績を持つ MEDIPOST 社の知見と、RMDC の自

動培養技術を融合させます。具体的には、熟練技術者のノウハウを AI に学習させ、細胞の状態に応じた自律的な判断を可能にする「フィジカル AI 自動培養ロボット」の共同開発、および海外市場への販売協力を加速させてまいります。

今回公開した動画に登場する装置は、まさにこの革新的なプロジェクトの基盤となるものです。

◆株式会社RMD Cについて

<https://rm-dc.com/>

本 社：東京都渋谷区神宮前六丁目 17 番 11 号 JPR 原宿ビル

代 表 者：代表取締役 川端 暢宏

事 業 概 要：特定細胞加工物の製造、ヒト由来化粧品原料の製造及び販売、自動細胞培養装置の開発

<報道関係の方からのお問い合わせ>

株式会社RMD C IR・広報担当者

MAIL：sales@rm-dc.com